

■学校経営のポイント

若手教員の意欲と授業力を高める

小島 宏

若手教員の授業力が十分でないことは、教職経験の浅いことからやむを得ない面もある。しかし、子どもに「質の高い教育」を保障する観点から看過できない。若手教員の意欲と授業力を高めることは、自校の子どもたちのためだけでなく、地域や日本、さらには世界の未来のためでもある。

管理職の関わり

まず、若手教員に対して、管理職から気軽に声を掛けるようにするとともに、相談に丁寧に応ずるようにして人間関係を築くことが大切である。

その上で、授業観察を随時行い、指導・助言を励行したい。その際、若手教員のよい点を見つけ、認め、褒め、自信をつける肯定的評価を心掛けたい。そして、よりよくなるために、いくつかの注文(これが実際のねらい)を具体的に、簡潔に付けるようにしたい。後日、注文を付けたことについて確認し、改善への努力や進歩が認められたら高く評価し、教員を前向きにしていくことが肝要である。

また、学級経営や生徒指導、校務分掌の処理などについても、同様の肯定的評価の発想で指導・支援するようにしたい。

若手教員は、学級崩壊や授業崩壊に陥りやすい傾向がある。予防的対応の指導に加え、崩壊状況が起きた時の対応の仕方を、学年会や教科会などチームとして指導・支援するようにしたい。

職員室の日常会話

多忙であることやITの普及で、教員が個々に行動することが少なくない。そこで、仲間との気軽な情報交換&報連相を奨励するようにしたい。

また、学年会・教科会・校務分掌部会が、若手教員が先輩教員に相談したり質問したりするなどして「先輩から学ぶ」ことのできる機会となるよう、ミドルリ

ーダーや先輩教師に働きかけたい。「隠れたカリキュラム(Hidden Curriculum)」としての教員研修の効果が期待できる。

週案の活用

全ての学校で、各教員は、週案によって学級経営や各教科等の指導、生徒指導などについて、今週の振り返りと次週の計画をしている。義務的な提出と形式的な検印で済ますようなことがあってはならない。この週案を最大限に生かして、若手教員の意欲喚起と授業力向上につなげる必要がある。

そこで、週案を若手教員と管理職の交換日記と考えて、先述の肯定的評価を行い、きめ細かく指導・支援・応援する。これは、ベテラン教員に対しても同様である。

また、夏季休業中に、若手教員をはじめ全教員に4~7月の取組を振り返り、自己評価をさせ、2学期以降の研修の課題を掴ませたい。

校内研究への主体的な参加

校内研究も若手教員の研修の機会である。授業研究に臨んで、指導案の作成と提案事項の検討、授業観察とその後の協議会などに、主体的に参画・参加し、OJTとして学び取る場としたい。

そのため、授業観察し、子どもの学習状況や授業者の指導方法を観察するよう促したい。そして、観察した事実に基づいて、協議会では積極的に、「自分の授業に取り入れたいよい部分、課題と改善案、新しく取り入れてほしい事柄」などを発言するように奨励したい。

このような校内研究への参加が、学んだことを自己の授業に取り入れて日常の授業を改善すること、すなわち授業力の向上につながることになる。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●「保護者の本音が分かれば苦労はしない！」に応えます 《最新刊！》
保護者トラブルを生まない学校経営を“保護者の目線”で考えました

【著】永堀宏美 A5判・232頁／定価(本体2,000円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

